

第4回 第2次日野市立図書館基本計画策定委員会 議事概要

■日 時：平成24年6月29日(金) 午後3時00分～5時00分

■場 所：中央図書館 集会室

■出席者：窪川委員、田中委員、野田委員、廣澤委員、松尾委員（委員長）、大杉委員、増子委員（副委員長）、長崎委員、宇津木委員（館長）
（事務局）鬼倉、清水、佐々木、原、星

■欠席者：山岡委員

1. 開会

- ・事務局より配布資料の確認

2. 第3回委員会の議事録について

- ・各委員にメール等で事前に送付し、ご意見により追加・修正等を行った議事録についての内容の確認を行い、各委員の承認を得た。

3. 「図書館の基本」について(まとめ)

事務局：これまでの2回の委員会で議論いただいた「図書館の基本」について、図書館が考える基本と市民が求める基本をまとめた。これが、計画の基本理念、基本方針にあたる部分となる。また、サービスについても話が出たが、それについては、今後、議論していきたい。ここで、基本理念、基本方針がまとめれば、それに基づいてサービスをどう展開するのかを議論してもらいたい。事務局としては、基本理念は踏襲したいと考えている。任務や方針については、この会議で検討してもらいたい。この第1次計画の基本理念である「くらしの中に図書館をー市民に役立ち、共に歩む図書館ー」は、図書館の利用案内などでは、第1次計画の前から使っているものである。

副委員長：今回の『「図書館の基本」まとめ（アメリカ社会の図書館12カ条風に）』（以下、『「図書館の基本」まとめ』と表記する）は、今までの議論に基づきうまくまとめられている。このスタンスに則って計画策定を進めたい。基本理念は、日野市の図書館の方向性であるし、基本方針にもなる。基本理念については、言葉遊びにならないよう一旦保留にして、議論した中で最後に考えるのも良いと思う。

→（委員長）基本理念は、もっと議論した後に皆で検討することにする。

委員長：第1次計画の「図書館の任務」についても、今回の『「図書館の基本」まとめ』と整合性をとっていく必要がある、このまま、第2次計画に持ってくるできないかなと考えている。

委員①：基本理念や基本方針は図書館法制定以来人口に膾炙されてきたもので既に完成されたものとなっており変更の必要がないのではないかと。より大切なのは、具体的内容ではないか。第2回、3回のフリートーキングで各委員から提起された具体的内容を基本理念にあてはめるかたちで論点整理していけば、効率的な会議運営が出来るのではないかと。

委員②：この計画書の作り方として、まず、基本方針を見直し、次に重点的な取り組みを検討してい

くということに理解している。演繹法と帰納法でやるかであるが、帰納法で、いろんな具体的な世の中の変化やこれから5年後の日野市のことを考えて、基本方針を考え、最終的に基本理念を見直すか、あるいは演繹法で、最初に基本理念を決めて、基本方針を見直し、重点方針の中で見直すのかということになるのか。

委員③：第1次計画の「図書館の任務」にかかっている上の4つについては、市のどこの部署でもやっていることが多い。図書館の基本計画なので、もう少し、図書館独自のものを入れた方がより特徴が出て良いのではないか。

→ (委員長) 今までの議論を踏まえて、まとめたものが優先していくので、変更していく必要もある。また、計画の構成としては、第1章は端書きに入れ、もうひとつは第2章へ入れてしまった方がよいのではないか。

副委員長：第1次計画は、基本方針が、次の実施計画のどこに対応するのかがわかりにくい。「『図書館の基本』まとめ」にある11箇条のそれぞれのどの部分になるか、また、実際に具体的に何をすることを明記する必要がある。第1次計画の評価の中で、未実施のものを次にどうするのか、新たな課題は何かを検討することが必要である。

委員長：それぞれの基本方針とサービス計画をリンクするようにまとめていけば良い。基本計画を作るときには、まず目次立てができれば、うまく流れていく。

コンサル：現在の1次計画は5つの基本方針と後半の実施計画の繋がりが無い。理念は踏襲することもあるれば、変更もあると思う。第1次計画の基本方針は、どこの自治体の図書館であっても通じそうな内容なので、これにプラスすべき日野市独自の日野らしさをここで議論して行く必要があるのではないか。

委員①：大事なものは具体的な施策であり、施策の具体的な内容だと思う。理念についての議論で時間を消費して欲しくない。

委員④：過去3回も図書館の基本について議論しているので、この「『図書館の基本』まとめ」について文句はない。思い切って各論から入ったらどうか。第1次計画の個別の事業は以前評価しているが、あの部分からは行って行く必要があると思う。あれに基づいて各論から議論して、その後にもう一度基本に戻って、場合によっては基本を変えるという繰り返しで、計画が出来るのではないか。

委員①：重点施策を先に議論することでも良い。1回目の議論を踏まえて2回目、3回目の議論を進めて欲しい。

副委員長：議論は、きちんと積み上がって「『図書館の基本』まとめ」が出来たと思っている。図書館のスタンスを決めるために明文化してまとめておかなければ、次の段階には進めないで、今までの議論は無駄にはなっていない。この11の項目を皆さんで了解したうえで、各論がこの中にあてはまるのかどうかを確認しながら計画を作っていくことになる。第2次計画を策定する中で、分類して取捨選択するための材料になったと思う。

委員②：委員長や事務局の提案として、「『図書館の基本』まとめ」の案を次の第2次計画の基本方針や任務に置きかえるが、これが、今までの議論のネタからまとめていると理解をした。

委員長：今までの議論の材料はあるが、振り分け等の作業はしていない。第2章の案をそのまま使うということではなく、この「『図書館の基本』まとめ」を基本とし、これに基づいて個別のサービス計画について議論していくことになる。それがどこにあてはまり、どのように精査していくのかとなる。今日は討議素材の準備もないし、個別計画の検討は、次回以降となる

であろう。

館長：基本理念は大きく変わるものではないという前提はあるが、皆さんと一緒に確認していいものがまとまったと思う。これを達成するために何をしていくのかは、次の各論で貼り付けてくるので、これを今後議論して出していく必要がある。そのためにも、それぞれの各個別事業をどうするかの見直しをすることが必要である。また、この中に入っていないものについても追加し、最後に基本理念をもう一度見直すことになると思う。

副委員長：今回、『『図書館の基本』まとめ』としてまとめたものは、理念に近いものである。今後、それぞれの事業を委託する、あるいは自前で行うという判断をする際にも、図書館の基本のどれにあたるかをわかっている必要がある。

委員①：第2回の会議の議論がキーワードに全く反映されていない。例えば、私が提起した10年後20年後の住民環境を考慮した未来志向型の図書館サービスの観点等第2回の議論をキーワードに反映して欲しい。

委員④：各論の議論を始めると、もっとキーワードは出てくる。基本論はこのくらいにして、各論を議論して、それをどう整理するかではないか。市民委員としては各論の方が議論しやすい。

委員①：市民にとって何が大事かを考えると、まずは具体的な施策内容が大事だと思う。理念そのものに有用性は感じないのではないか。

委員④：理念論は3回議論しているので、今後の議論の過程では、各論を議論して行く中で、適宜、基本理念に立ち戻って手を加えていけばいいのではないか。

委員②：この『『図書館の基本』まとめ』の案を基本方針に置きかえるということについては、今後、具体的に重点施策の議論をした際に見直すかもしれないということであれば、異議はない。ただ、基本を議論した際に、第1次計画を逐一見ながら議論した訳ではないので、もう一度見直す際には、第1次計画に不足していることは加えて欲しい。

副委員長：これはコンプリートしたものではない。また、第1次計画のように、サービス計画、施設計画で分ける方法はどうかと思う。どこにお金をかけ、どの事業を生かし、どれを切るのかを市は選択していくべきである。

委員④：ひまわり号は廃止の方向になるのか。図書館の空白地帯があるとすれば、ひまわり第2号も検討の余地があるのではないか。

→ (副委員長) 市の生涯学習施設の中で、図書館が一番手厚く見られている場所である。ひまわり号廃止の予定は一切ない。

委員④：他の区域では、巡回サービスを中止するところもあると聞いているが……。

副委員長：予算的に厳しい中では、民間委託をするという方法もあるかもしれないが、これからは、見直しをしていくと、削らざるをえないものもある。

委員②：我々は、図書館はこうありたいという計画を作る委員であって、予算的に限界があるので優先順位をつけるとか、これは削ってもしょうがないという議論は、この会議には馴染まないと思う。ただ、外部からはいわれるので、理論武装しておかないといけない。

→ (副委員長) アカウンタビリティは絶対必要である。

委員④：今後の財政状況によっては、新しい図書館を作ることは可能であるという10年後の青写真を描くということはあるのではないか。

館長：あまりかけはなれた構想を描いても意味がないので、やはり実現出来る計画を作っていく。そのためにも各委員の意見を聞いて、より市民の側に立った計画を作り、それを今後運

用していきたい。

副委員長：今日の「『図書館の基本』まとめ」を認めて頂いたということで、今後の提案として、各個別計画の評価で見直しをするといったのだが、具体的にどう見直すかによる。この評価一覧では見づらいので、この項目は「『図書館の基本』まとめ」の11項目のどこにあてはまるかを検証した上で、不足しているものは何か、不要のものは何かという必要性の方向性も整理してはどうか。

→ (委員長) たくさんある項目におさまらないものもあるが、それはそのまま良いであろう。小項目は115があるが、そこまで振り分けるのか。

→ (副委員長) なるべく各論に近いものが良いという意見があったが、中項目でも分類出来るのか。

→ (コンサル) 大きい中項目で分けると意味がなくなるので、115で分類すべきである。また、この11個の方針に従って分類し始めると、①と②の違いは何かなど、いろんな問題が出てくると思う。

→ (副委員長) では、115で仕分けしてもらい、そうすると分類にあてはまらないものについても、今後、これは不要なのかなどということがわかってくるのであろう。

→ (委員長) 計画が済んでしまったものは、第2次計画には入れないことになるであろう。

委員①：それと、前回、前々回の議論のキーワードをここで項目別に分類して欲しい。また、図書館の基本の「いつでも、どこでも、だれでも、無料で必要な資料や情報が入手出来ること」の無料という言葉は違和感がある。納税者としての市民の立場からすると奇異な感じを持たれないか。無料は、大前提ではないか。無料を入れた意味は何か。

→ (委員長) 必ずしも、みんなに無料という認識はないと思う。無料であることはアピールしておくべきである。重要なところであると思う。

→ (副委員長) 図書館が無料であるということは重要であり、はずせない。

館長：知らない人がいるという前提で入れておき、後から議論して変更したら良いのではないか。

→ (委員長) 次回は、この「『図書館の基本』まとめ」に基づいたもので、個別の計画を検証し、議論を進めていく。

委員④：この115の計画を全部やろうと思うから大変なのであって、その中で、もっとざっくりとまとめる方がよい。例えば、すべての市民へのサービスの中で、乳幼児、児童、青少年、成人、高齢者とライフステージ別に計画があるが、すべて一緒にして議論すればいいのではないか。

→ (副委員長) 各論は、具体的に何をするかということになるので、ここでチェックしていくことになる。今のままでは、だからどうするというのが見えていない。

→ (委員長) 大枠の分類をしておけば、結果的には一致すると思う。分類したほうが議論しやすい。分類の仕方は、コンサルと事務局とで検討してもらう。

→ (事務局) 「『図書館の基本』まとめ」に基づいて割り振りをして、足りないものについては新たに追加していきたい。

→ (委員長) この作業をしておけば、最後に計画を作る際に整合性がでてくる。

4. 連絡事項(事務局より)

- ・第5回委員会は 7月13日(金) 午後6:00~8:00 市役所501会議室の予定。
- ・今日の議論の状況から、7月の後半に、臨時会議を入れることを提案したい。

→ (委員長) 第5回だけでは、計画の検証が終わらないと思う。

委員①：第5回の進捗状況を見て、臨時会議をするかどうかを決めるということでしょうか。

→ (委員長) 7月27日を臨時会議の第1候補としておいて、13日に終わらないようであれば行うということにしておく。

→ (副委員長) 割り振った段階で、事務局で整理・検証しておき、中項目ごとに発表してもらいたい。

委員①：論点整理は、ぜひ事務局でやってもらいたい。

5. 閉会

以 上